

令和3年度みんなで支える森林づくり北信地域会議概要

長野県北信地域振興局林務課

1 実施方法

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から会議形式での開催を中止し、構成員の皆様へ資料を送付してご意見を頂いた。

2 意見照会内容及び説明資料

(1) 森林づくり県民税活用事業に関する意見

ア 令和2年度森林づくり県民税活用事業の検証、評価

資料1 令和2年度みんなで支える森林づくりレポート

資料2 令和2年度森林づくり推進支援金事業(北信地域)総括書

イ 令和3年度森林づくり県民税活用事業の実績見込み(北信地域)

資料3 令和3年度長野県森林づくり県民税活用事業(北信地域)一覧

ウ 令和4年度の森林づくり県民税活用事業予算案

資料4 令和4年度森林づくり県民税活用事業について

(2) 長野県森林づくり指針の改定について

資料5 長野県森林づくり指針の改定について

3 構成員の皆様からいただいたご意見

(1) 森林づくり県民税活用事業に関する意見

ア 令和2年度森林づくり県民税活用事業の検証、評価

【資料1】

- 里山整備事業に防災・減災のための事業を新たに追加したのはとてもいいことだと思います。その必要性も計画以上の実績件数が出ています。電線や道路の近くの支障木を伐るため、高性能林業機械・クレーンなど使用しますので、金額が大きくなり、実行出来ずにいましたのでとても助かります。
- 予算額がわからないので、進捗率や達成率がわからない。
- 危険木の伐採が増えたようですが、当初からの予定だったのでしょうか？まだまだ危険箇所が多いと思います、是非活用をしていただければと思います。
- 木材活用の部分がさみしい気がします。
- ハード面とソフト面で活用できていることはとても良い。
- このような事業をコツコツ続けたことにより、山に再び関心の目が向けられて来ている。納税者もこれらの動き等に注目している。その結果、森林税の継続も理解してくれたのではと思います。(自然災害の急激な増加等もある)

【資料2】

- 木を活かした力強い産業づくり事業の木島平で実施した内容で、森林税PRプレートを設置したという取り組みがとてもいいと思いました。森林税はこういうことに使っているとアピールでき、また認知度も上がります。しかし、課題に県産材の必要性、意識が弱いと記入があり、こちらでもアピールが必要だと感じました。
- 木材活用の部分がさみしい気がします
- 市町村の支援金の活用もマンネリ化している感じが・・・新しい発想が欲しい。

イ 令和3年度森林づくり県民税活用事業の実績見込み

- 「ア」でも挙げたようにライフライン事業の金額は、やはり大きいです。栄村は、令和2年12月に大雪の影響により倒木が電線を切断し、大停電するという災害が起きました。そんな災害を繰り返さないよう、令和3年にライフライン事業を利用しました。電線に注意しながらの作業のため、とても大変な仕事ではありましたが、住民の方々からは、「今年は雪折れ(倒木)が無かったから、停電が無くて安心して過ごせる」とお声をいただき、実行できてよかったと安心しました。
- 「子供の居場所」木質空間整備事業、利用されている団体が同じ人ばかりに感じてしまう。
- 事業の実績は評価できるが、同じ対象者の支援はいかがなものか？要望の有無が原因か？
- 木材活用の部分がさみしい気がします。
- 主な目的を果たした後の成果として、防災、減災、鳥獣による人、農作物への被害防止につながっている。説明看板を全ての事業につけてPRにつとめても良いと思う。これらの事業は大切で、長くつなげていくことが必要と思います。

ウ 令和4年度の森林づくり県民税活用事業予算案

- 推進事業を増額したのは、森林税をどんなことに使っているのか、その必要性などを県民の皆様伝えていく活動に力を入れたいという考えかと思いますが、新型コロナウイルス感染症もある中で、どのように広めていこうと計画を立てていますか？
- 里山整備・災害・減災等整備事業に関して、まだまだ整備するところは沢山あります。また森林のほとんどが戦後植えられた木だと思しますので木が大きく、危険木の処理作業に関しましては金額も多くなっていくと思います。
- まちなかの緑地整備事業県民協働は、ニーズがあるのでしょうか？資料1のR2実績と比べて見ますと推進10%ほどしか活用されてない。
- 令和3年より大幅に減額しているがその理由はあるのでしょうか？
- 令和4年度で突発の事業に対応できる予算が欲しいです。

- 小学校等では前年度から計画するのは難しいので、新年度になってから活用できる予算がほしい（そのための地域会議であってほしいと思います）。
- 木材の利活用の新たな項目が欲しい気がします。
- 令和4年度の予算が減額されている理由は？
- 令和4年度も多様なプランが上がってくると思うが、その予算が税収を上回ってしまう。必要などころに必要な支援ができる仕組みづくりは出来ているのか心配。やる気のある人たちの意思を大切にしたいと思います。

(2) 長野県森林づくり指針の改定について

- 森林づくり指針の目標に近づくために森林整備等だけではなく、林道にも力を入れなければならないと思います。森林整備をしたくてもそこまで行く林道が無ければ、通ることも木材を山から出すこともできません。また他にも過去に開設した林道が、災害等による破損や道幅が狭く急なカーブや上り坂で材を運ぶトラックが入れず、そこまでフォワーダ（高性能林業機械：林内運材に使用する機械）で運ばなければならこともあります。多くの林道の開設・補修と、開設は土木関係になるかもしれませんが、林業従事者からの要望を伝える事は必要かと思います。
- 戦後に植えられた木が大きくなり、伐採時期が来ています。しかし昔は価値のあった木材も当時より価値が下がり、森林所有者方の関心もなくなり、所有者不明な森林土地が多く出ています。その関係で森林整備できない箇所もあります。その他にも林業従事者が少なく整備しきれない所も多くあります。この森林づくりを切っ掛けに盛り上げて行ければ良いと思います。
- 森林環境税が始まりましたが、まだ目に見えて利用されていない気がします。税の目的をはっきりと区別して市民に知らせることが必要。
- 継続を進めるなら新しい枠組も増やしていかないと難しいのでは・・・。
- 事業全体がマンネリ化状態になりつつある気がする。新しいものがほしい。
- もっと一般の人たちが身近に感じることでできる事業が欲しい。
- 地域づくり、人づくりを進めていただき、地域外の多くの人々との交流を生み出す事に力を入れていただきたい。
- 「森林所有者が林業に期待できるモデルが示せるとよいのでは」という意見に賛成です。個々の所有者が再び自分の山の手入れができることが理想的。指針は大切な羅針盤。政策に期待します。

(3) その他

- 森林組合では、組合員さんと意見交換する機会を設けています。その中でも特に鳥獣被害の話が多く出ています。伐採時期を迎えた立木が、「熊による皮はぎで葉が真っ赤になり枯れてしまい見ていて悲しくなる」、「里山と集落の境界が無くなり、よく下りてきて畑を荒らされる」と、お話を聞きます。そんな中、里山整備を行なった場所は見通しもよくなり、熊や鹿が見えなくなったとも聞きますので、効果が出ていることがわかります。
- 森林税は10年以上にわたり、色々と取り組みがなされていますが、なかなか県民として、森林税の活用の実感が湧いていないのではないかと思います。何か目に見えて実感できる説明や実践が必要なのではないかと思います。
- 森林税を活用することで、長野県の環境がどのように改善され、県民の生活にどのような良い影響が現れていて、今後どのような展望の下、長野県の森林が活用さSDG`sに役割を果たしていくのか。そこを林務課だけの垣根を超えて、産業、観光、福祉の部門とも連携した事業実施が求められているように感じます。
- まさに今の時代だからこそ、県産材の活用が求められており、ゼロカーボン、自然エネルギーにシフトできる可能性を長野県は大きく持っていると思われまます。
- 各地域振興局に均等に振り分けることも必要かと思いますが、とりわけ先進的で、発展性が望まれる取り組みについては、強力で押し進めていくことが必要なのではないでしょうか。
- また、これまでも何度と意見を出ささせていただきましたが、子どもの環境教育や、学びの空間や教材に、もっと県産材を活用していただけることを期待しています。
- 学校の総合学習の時間に、森林整備の現場を見たり、自分たちの学習するための机やイスを作ったり、野外活動プログラムを実施するための費用を支援してはいかがでしょうか。学校も限られた時間の中で、予算もなく、実施したくても実施できない現状が多くあると思います。そういう意味では、子供たちが自然に触れ、その楽しみを知ることが自然を守ろう、自然のことをもっと知りたいという動機づけになるのではないのでしょうか。
- 長野県内には多くの登山道や遊歩道、トレッキングルートもあります。これらの維持管理には山小屋や団体が大きな役割を果たしていますが、このコロナ禍により、山小屋も大きく収入が減り、維持管理をすることさえもままならない状況があると聞いています。それらの事業者や団体を支援することも大切なのではないかと考えます。
- 今後の長野県の山、森、自然がどのようになってゆくのか。それがどのように県民に幸福をもたらすのか。それを具体的にビジョンとしてイメージしやすい形で発信していただけることを期待します。
- やりたい事が年度途中で発生した場合などに対応できる予算がほしい。

- 子どもたちの木育のため学校へのPRをしてみてもいいのでは？林務と教育委員会と横連携事業がこれからは重要だと思う。
- 税が何に使われているのかわからない市民が多いので、広報だけでなく身近に感じられる事業を取り入れて欲しいと思います。
- 木製フェンスや縁石など設置後の劣化などメンテナンスの不備が目につく、何とかならないものか？
- 嫁いで50年になるが、一度も自分の山に足を踏み入れたことがない。境界線も分からず子供に教えることもできない。私のような人がたくさんいると思う。この様な山の所有者を再び森林づくりに戻すには、国土保全の観点からの支援が必要ではないでしょうか？

4 ご質問等に対する回答

(1) 令和2年度実績について

- 事業の進捗率、達成率は、予算ベースの執行では、約90%ですが、事業ごとの増減がかなり大きい状況にあります。(資料1 P9～10)
- 危険木の伐採は、災害が頻発したことにより、当初の想定以上に要望、実施が多くなっています。(資料1 P9～10 達成率248%)

(2) 令和3年度実績（北信地域）について

- 同じ事業主体が事業を活用していることについては、①事業制度上の理由によるもの、②同じ団体からの事業要望によるもの、の2通りがあります。
①は里山整備利用地域活動推進事業（資料3 P4（4）ア）です。この事業は、里山整備利用地域として認定された地域において、地域住民による協議会の活動等を支援するもので、3ヵ年補助を受けられる制度になっています。
②については、事業の要望、募集など市町村を通じた照会や県ホームページ等で行っているところですが、必要としている団体等に情報が届くよう引き続き事業の周知に努めてまいります。
- 木材活用は当地域の課題であると認識しているところであります。上記と同様、引き続き事業の周知に努めてまいります。また、次期森林税については現在未定ですが、長野県森林づくり指針の改定と合わせアイデア、ご意見をいただければ幸いです。

(3) 令和4年度の長野県森林づくり県民税予算案について

- みんなで支える森林づくり推進事業は、森林の役割や森林づくりの重要性等について、理解を深めていただくための広報・普及啓発活動等を実施しているものです。新型コロナウイルス感染症による対応を求められる中、全県ではYOUTUBEなどを活用したPRを、北信地域では情報誌を活用したPRなどを行っているところです。令和4年度については、今期の森林税最終年度になることから、県民意識調査のためのアンケートなどを予定しています。
- 令和4年度の予算は、令和3年度に比べて3億円近い減額になっています。毎年の税収は約7億円弱ですが、平成30年度から令和3年度までは税収を超える事業を実施していました。これは、第2期（平成25年度から29年度）の森林税において発生した残額が基金に積み立てられていたため、これを活用してのものです。この基金残高を令和3年度でほぼ使い切ったことから、令和4年度は当年度税収のみによる事業実施となるため減額されています。なお、基金の活用は第3期の森林税が始まった時点で計画されていたものです。（資料1 P32）

(4) 長野県森林づくり指針の改定について 及び (5) その他

- 貴重なご意見をありがとうございました。森林づくり指針の改定、森林税事業の制度に関する内容と併せ、北信地域会議の意見として県庁担当課に報告させていただきま
- 森林づくり指針の改定等については、来年度に向けて検討を行ってまいりますので、引き続き、ご意見を頂ければ幸いです。